

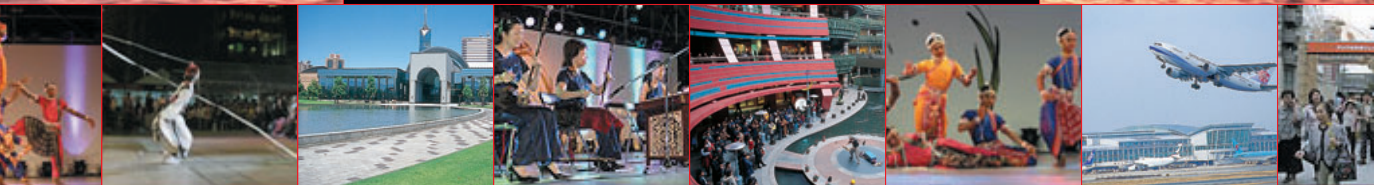
アジアを知りたい : 九州大学発アジアへのアプローチ

<https://doi.org/10.15017/13306>

出版情報 : 2006-03-20. 九州大学アジア総合政策センター
バージョン :
権利関係 :

アジアとの 国際交流の 拠点都市 — 福岡

福岡からソウルまで飛行機で僅か1時間、東京よりも近い距離に隣国韓国がある。博多港から釜山まで玄界灘を横切る高速船ビートルなら3時間。週末に韓国でグルメやショッピングを楽しんだり、年末には日帰りでの忘年会を気軽に行うことが出来る。那珂川に



隣接する福岡の人気スポットのショッピングモールであるキャナルシティ博多は、若い韓国人のカップルや台湾や香港からの団体観光客でにぎわい、福岡市内の地下鉄では韓国語や中国語が頻繁に飛び交い、公共施設の表示は英語、中国語、韓国語の多言語併記が行われている。地方紙は中国や韓国、台湾との経済活動や人材交流に関する記事をトップで紹介し、英語に加え、中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、フィリピン語などアジアの言語による多言語放送を行うFM局もある。

アジア大陸との交易によって栄えてきた福岡は、日本の中でもアジアに近いことを実感する街だ。百道にある福岡市博物館には1784年(天明4年)に志賀島の農夫が発見した国宝「漢委奴国王」の金印が展示されており、大濠公園の近くには、その昔、奈良・平安の時代に唐や新羅の使節を接待した迎賓館である鴻臚館の跡がある。また、海岸沿いには蒙古襲来に備えて築かれた元寇防塁や、

朝鮮人強制労働者を抱えていた筑豊炭鉱、博多湾に聳える戦後の引揚者の碑などは、福岡と隣国との重層的な関係を物語っている。過去から現在へと続くアジア諸国との交流史が、街の風景のあちこちに埋め込まれているのだ。

しかし、歴史的にアジアとの交差点に位置してきた福岡は、単にその地政学的位置からアジアと深い関わりを築いてきたというだけではない。福岡市は市制100周年を記念して1989年に開催された「アジア太平洋博覧会」以降、より積極的に「アジアの拠点都市」を目指し、福岡市民にアジアをもっと身近に感じてもらい、アジアの人々に福岡を知ってもらうためのアジア重視政策を掲げ、数多くのしかけを生み出していった。その中には博覧会の翌年からスタートした「アジアマンス(Asian Month)」、1990年に創設された福岡アジア文化賞、1991年から開催されている「アジアフォーカス・福岡映画祭」(いずれもアジアマンスの主要事業)や現代美術のトリエンナーレを開催する福岡アジア美術館などが挙げられる。



アジアを学び、アジアを聴き、アジアを観るためのイベント「アジアマンス」は、コンサートや展覧会、セミナーや屋台の出展などの催しが8月から10月まで行われる。アジアの多様性を理解するための市民参加の催しとして、福岡だけでなく遠方からも参加者や観衆を集め、毎年恒例のイベントとして定着している。

福岡アジア文化賞は、アジアの固有かつ多様な文化の保存と創造に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰することにより、アジアの文化の価値を認識し、アジアの人々が相互に学び合いながら、幅広く交流する基盤作りに貢献することを目的としている。過去の受賞者には、フィリピン革命に独自の視点を持ち込んで歴史研究を行ったレイナルド・C・イレートや、自身の子供時代をベースにカンボン(村)の生活を生き生きと描いたマレーシアの漫画家ラット、何度も政治犯として投獄されながら流刑中にインドネシアの民族自立と人間解放への願いを描いた歴史小説を完成させたプラムディヤ・アナンタ・

ツールらアジアの現代史をリードしてきた知識人が受賞している。第16回を迎えた2005年には、東アジアの民俗学の第一人者である任東権、ミャンマーの貝葉文献(ヤシの葉に書かれた古文書)の保存に尽力したトー・カウン、作家であり古典文学や織物の研究者でもあるラオスのドアンドゥアン・ブンニャウォン、ブータンの伝統音楽の保存と継承に取り組むタシ・ノルブが同賞を受賞し、彼らの活動が日本に紹介される貴重な機会を提供している。

福岡アジア美術館は、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し、展示する世界に唯一の美術館として1999年に誕生した。西洋美術の模倣でも、また単にその国固有の伝統を受け継ぐだけでなくダイナミックに変化し続けるアジアの「今」をさまざまな方法を通じて発信している優れたアーティストの作品を展示するほか、アーティスト・イン・レジデンスなどの滞在型のプログラムやワークショップを行っている。また、ベネチアやミラノなど欧米主導の国際美術展が権威を持つ中で、アジアの歴史、社会、文化に根ざした独自の



作品を紹介することで知られる福岡アジア美術トリエンナーレは、アジアの現代美術の動向を知る上では欠かせない先進的な役割を果たしている。

アジアフォーカス・福岡映画祭は、現在注目を集めている優れたアジア映画を世界に紹介していくことを目的に1991年に創設された。以来、年々観客動員数を増やし2005年には1万8000人余りの観客を集めた。公開される映画の多くが日本初公開であるため、ニュープリントを輸入し、日本語と英語の字幕を付けての上映となり、アジアに焦点を当てたユニークな映画祭であるとしてマスコミや配給会社の注目を集めている。2005年は東は日本や韓国、中国、西はトルコやシリアまでを含む15カ国・地域から選ばれた36作品が上映された。

福岡はアジアが近いと体感できる街。九州大学のアジア研究の醍醐味は、絶好のロケーションから生み出される活力によっても支えられている。(文責・小川)